



なんでも揃うアルコールドリンク。すべてフリーという超お得なサービス。期間限定だったのは残念だが、体験できて嬉しい。



サロンの飾り棚も利用した諫山展。アートも楽しめるのもホテルの新しい魅力。



都をどりのポスターにも相応しい舞妓さんの着物も素敵『談笑』。



春を彩る花街の舞踊公演。祇園甲部による都をどりのほか宮川町京おどり、先斗町鴨川をどり、上七軒北野をどりがある。



諫山宝樹展「洒脱」が開かれているときに撮影したホテル。



タッセルホテル1階サロン。朝食会場。東側が白川に面していて明るい。

暮らす旅 京都 京都を描く 諫山ワールド

文・写真／松岡伸吾（暮らす旅舎）

京都は相変わらずホテルの開業ラッシュが続き、よく人手不足にならないものと感心する。街はコロナ前を上回る海外旅行者に溢れ、駅前のタクシー乗り場の長蛇の列を見ると、地下鉄で行きやすいホテルに限ると思う。また朝食の良さと部屋の広さに加え、手頃な料金も選ぶ基準だが、新規オープンのお得なサービスも見逃せない。

昨年12月、知り合いの画家、諫山宝樹さんの作品展を見に、東山三条駅そばのタッセルホテル三条白川に出かけた。小さなホテルの一階ラウンジに、デッサンと線描の美しさが魅力の絵が、工芸品と並んで展示されていた。

諫山さんとは『京都はお茶でできている』の取材中に陶々舎を通じて知り合った。陶々舎とは、若者三人がお茶のある暮らしを实践する大徳寺そばのシェアハウスの名前でも、グループ名でもある。その初代メンバーの中山福太朗さんが私のお茶の師匠だ。

諫山さんは太秦撮影所のセットの模絵をはじめ多くの映像作品の美術を手がけてきた。昨年は都をどりのポスターを描いたり、NHK大河ドラマ『光る君へ』では衣装人物画も担当した。

寺院への奉納画も多く、印象的な彼女の絵はあちこちで見ることができる。節分の日に、永観堂近くの茶会に行く予定があり、岡崎付近でググったらタッセルホテルが出てきた。通りの向かいには午後2時に開くバー「うえと」もあるのが即決した。朝食会場となるラウンジの本棚にはブックディレクターの幅允孝氏が選んだ京都関係の図書がずらり。『京都はお茶でできている』もしっかりあって大満足。

驚いたのは午後6時から10時まで、ビールやワインはもちろん日本酒、焼酎、ウイスキーやジンなどがフリードリンクサービスをしていたこと。しかも枝豆などのスナックやドライフーズもある。酒をやめた私にもコーヒー、紅茶、ジュース、お菓子まで揃い楽しめた。ただ改めてネットで調べると、現在アルコールはなく、コーヒーと紅茶とスナックのみで、シーズンオフの特別サービスだったのかもしれない。

余談だが、3月のアートフェア東京で、諫山さんの作品を見つけ思わずゲット。『談笑』というタイトルで、笑顔の舞妓さんが素敵な作品だ。